

# 第13期 MOT (技術マネジメント) 研究会

開催のご案内

テーマ：逆境を打開する 新たな価値を創造する技術経営

[2021年大阪開催]

- ◆ 会 期：2021年7月21日(水)～11月8日(月)
- ◆ 会 場：大阪科学技術センタービル会議室  
(大阪市西区鞆本町1-8-4)
- ◆ 講 師：(講義および各回のコーディネーター)  
神戸大学大学院経営学研究科教授  
原 田 勉 氏
- ◆ 実践事例：富士通、BIRD INITIATIVE、安川電機、岩谷産業
- ◆ 対 象：研究・開発部門、技術部門の管理者・リーダーの方々  
企業内でMOTの推進・教育に携わるの方々 など  
(定員 30 名)

## 開催にあたって

グローバル競争の激化や国内市場の縮小化など、企業を取り巻く事業環境は変化しております。そのため、各企業においては自社製品・技術の優位性がゆらいでおり、新たな価値やイノベーションの創出が求められております。

そして、このイノベーションをいかに生み出すかを考えるのがMOTの主要テーマであり、本研究会ではその推進のための技術マネジメントのしくみ、新たな組織能力の高め方、研究開発活動のプロセスなどについて考えます。指導講師のコーディネートのもと、他社事例の発表とディスカッションをもとに、実践から得られるヒントを学んでいくカリキュラムとなっております。

今年のテーマは「逆境を打開する 新たな価値を創造する技術経営」です。自社で蓄積された技術も活用しながら、外部との柔軟な連携・提携によりイノベーションを推進し、既存の事業領域にとらわれない新しい価値を社会に提供できる組織であることが、時代を超えて勝ち残る企業の条件と言えるのではないのでしょうか。

この機会に、関係各位の積極的なご派遣（ご参加）をおすすめ申し上げます。

主催



一般社団法人 日本経営協会

## 指導講師

神戸大学大学院経営学研究科 教授  
Ph.D. (スタンフォード大学) 博士

原田 勉 氏



〔略歴〕 1989年一橋大学商学部卒業  
1991年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了  
1997年スタンフォード大学よりPh.D.(経済学博士)取得  
1997年神戸大学経営学部助教授  
1998年科学技術政策研究所客員研究官(～99年)  
2003年INSEAD 客員研究員(～04年)  
2004年ハーバード大学フルブライト研究員(～05年)  
2005年神戸大学大学院経営学研究科教授

〔専攻〕 経営戦略・組織・技術マネジメント、産業組織・経済成長論

〔著書〕 『POSITIVE DEVIANCE(ポジティブデビアンズ)』(訳) 東洋経済新報社 2021年  
『OODA MANAGEMENT(ウーダマネジメント)』 東洋経済新報社 2020年  
Economics of an Innovation System, Routledge, 2019年  
『OODA LOOP(ウーダループ)』(訳) 東洋経済新報社 2019年  
『イノベーションを巻き起こす「ダイナミック組織」戦略』日本実業出版社 2016年  
『イノベーション戦略の論理』中央公論新社 2014年  
『実践力を鍛える 戦略ノート[戦略立案編]』 東洋経済新報社 2010年  
『汎用・専用技術の経済分析』白桃書房 2007年  
『ケース演習でわかる 技術マネジメント』日本経済新聞出版社 2007年  
『実践力を鍛える 戦略ノート[企業価値評価編]』 東洋経済新報社 2007年  
『実践力を鍛える 戦略ノート[マーケティング編]』 東洋経済新報社 2006年  
『MBA 戦略立案トレーニング』 東洋経済新報社 2003年  
『ケースで読む 競争逆転の経営戦略』 東洋経済新報社 2000年  
『知識転換の経営学』 東洋経済新報社 1999年 他

### <指導講師からのメッセージ>

MOT(技術マネジメント・技術経営)について講演や研修を依頼される場合、よくあるリクエストは、他社での具体的な事例を数多く盛り込んで欲しいというものです。教科書のなかの話ではなく、現実にもどのような技術マネジメント、技術経営が実践されているのかは、多くの企業の方々にとって強い関心事であると同時に、その情報はきわめて限定されているのが実状です。というのも、このような MOT に関する事項はトップシークレットとしてあつかわれることが多いからです。

この MOT 研究会では、このような要望をもつ企業の方々に対して、日本を代表する優良企業で技術マネジメントを実践されている現場の方々を講師としてお迎えし、自社の事例について詳しくお話していただきます。そして、そこで問題提起された事項について自由に討議していきます。MOT に関心をもっているけれども、まずは先端的な企業ではどのようにそれが実践されているのか知りたい、自社で MOT を導入しているけれども、どのようにすれば成果が上がるのかヒントを得たい、といった要望をお持ちの方々には是非ともご参加いただき、共に研究していきたいと思っております。

## 研究会のすすめ方・特長

- 1 多彩なゲストスピーカーの講話や視察を通し、技術マネジメントのあり方と実践について多面的に学びます。また、各回とも指導講師のコーディネートのもと、質疑応答や討議・意見交流を深めます。
- 2 懇親交流会を通し、参加者同士の交流と親睦をはかります。  
(※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては中止する場合がございます)
- 3 全会合終了後は、すべてのドキュメントを1冊にまとめ、報告書として進呈いたします。



日時・会場	テーマと内容	当日のスケジュール(予定)
<p><b>第 1 回</b></p> <p>7月21日(水) 13:30~17:00</p> <p><b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル</p>	<p><b>基調講義 「OODAループとポジティブデビアンスによる組織改革の推進」</b></p> <p>講 師： 神戸大学大学院経営学研究科 教授 <b>原田 勉 氏</b></p> <p>逆境のなかで組織変革やイノベーションを進めていくためには、組織内に埋もれている片隅の成功者、すなわちポジティブな逸脱者を探し出し、それをOODAループによって普及させていくことが大切です。この講義では、OODAループとポジティブデビアンスの基本的な枠組みを説明したうえで、それを組織変革にどのように活用していくのかについて議論します。</p>	<p>13:30 開会 13:35 講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※指導講師、参加者の間で討議と意見交流 17:00 終了</p>
<p><b>第 2 回</b></p> <p>8月23日(月) 13:30~17:00</p> <p><b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル</p>	<p><b>「DX 企業への変革に向けた富士通の取り組み」</b></p> <p>ゲスト： 富士通株式会社 理事 技術戦略本部長 <b>岡田 英人 氏</b></p> <p>2019年6月新社長に就任した時田氏は、「IT企業からDX企業へ」転換を推進してきました。目指すべきは、テクノロジーによって、新しい価値を創造し、社会にあふれる問題を解決し、ひとりでも多くの人に幸せをもたらすことです。DX企業を目指す富士通が、パンデミック後の新しい世界においてどのような未来を構想し、テクノロジーイノベーションによって社会にどのようなインパクトを与えることができるのかをご紹介します。</p>	<p>13:30 開会 13:35 岡田氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 グループ討議 15:50 質疑応答とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で討議と意見交流 17:00 終了</p>
<p><b>第 3 回</b></p> <p>9月7日(火) 13:30~17:00</p> <p><b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル</p>	<p><b>「R&amp;D成果からの新事業開発モデル、続々と新事業を生み出すコツとは？」</b></p> <p>ゲスト： BIRD INITIATIVE株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 日本電気株式会社 コーポレート・エグゼクティブ <b>北瀬 聖光 氏</b></p> <p>研究部門を持つ企業は、R&amp;D 成果の事業化に課題を抱えています。日本電気株式会社で悪戦苦闘してきた R&amp;D からの新事業開発モデルや工夫、新事業開発におけるカーブアウトの活用法、そして、共創型 R&amp;D 事業 BIRD INITIATIVE 社で挑戦している取組について、事業開発、組織開発、人材開発の観点からご紹介いただきます。</p>	<p>13:30 開会 13:35 北瀬氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 グループ討議 15:50 質疑応答とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で討議と意見交流 17:00 終了</p>
<p><b>第 4 回</b></p> <p>10月11日(月) 13:30~17:00</p> <p><b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル</p>	<p><b>「i<sup>3</sup>-Mechatronics(アイキューブ メカトロニクス)を支える開発力強化の取組み」</b></p> <p>ゲスト： 株式会社安川電機 常務執行役員 技術開発本部長 <b>熊谷 彰 氏</b></p> <p>安川電機は、生産現場におけるお客様の課題やニーズに合わせた価値を提供するソリューションコンセプト i<sup>3</sup>-Mechatronicsを推進しています。このコンセプトを推進するにあたっては、これまでの強い製品を生み出す開発力だけでなく生産現場の機器を繋ぎ、稼働データから情報を集め解析してお客様に最適なソリューションを提案する新しい価値想像力なども必要になります。これらの力を効果的に育むための取組みと、今年度開設した安川テクノロジーセンターの概要をご紹介します。</p>	<p>13:30 開会 13:35 熊谷氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 グループ討議 15:50 質疑応答とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で討議と意見交流 17:00 終了</p>
<p><b>第 5 回</b></p> <p>11月8日(月) 13:30~18:30</p> <p><b>会場</b> 大阪科学技術 センタービル</p>	<p><b>「水素エネルギー社会に貢献する岩谷産業の技術マネジメント」</b></p> <p>ゲスト： 岩谷産業株式会社 中央研究所 副所長 <b>小池 国彦 氏</b></p> <p>岩谷産業は、1941年から水素を究極のクリーンエネルギーとして捉え、水素の利活用を通してCO<sub>2</sub>フリー社会の実現を目指しています。水素の需要創出については、燃料電池自動車(FCV)の普及に向けて国内外での水素ステーションの整備を推進するとともに、豪州からの液化水素の大量輸送・貯蔵プロジェクトへの参画や「水素バリューチェーン推進協議会」の設立など、水素社会の構築・拡大に向け様々な取り組みを進めています。このような取り組みについて、技術マネジメントの観点から掘り下げてご紹介いただきます。</p> <p><b>&lt;懇親交流会&gt; 同ビル内で実施予定</b></p>	<p>13:30 開会 13:35 小池氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 グループ討議 15:50 質疑応答とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者の間で討議と意見交流 17:00 ~ 18:30</p>

※ 上記の時間帯については、当日の進行状況により、多少変更させていただきます。また、各回の討議の進行については、当日の状況にあわせて指導講師がコーディネートします。

※ 諸事情により、日程・講師・内容等に変更が生じる場合がございます。

◆企画委員 (50音順) 本研究会の発足にあたり、主旨へのご賛同や企画へのご協力をいただいた方々

飯塚 憲央氏	東洋紡株式会社 参与 イノベーション戦略部長 (兼) 未来戦略グループマネジャー	鳥越 泰光氏	シスメックス株式会社 技術戦略本部 R&D 企画部 部長
請川 信氏	パナソニック株式会社 人材開発カンパニー 研修開発部 部長	能勢 孝行氏	ミズノ株式会社 グローバル研究開発部 部長
河原 克己氏	ダイキン工業株式会社 執行役員 テクノロジー・イノベーションセンター 副センター長	濱田 哲郎氏	株式会社ノーリツ 研究開発本部 グローバル商品統括部 開発2部 部長
栗木 隆氏	江崎グリコ株式会社 取締役 研究フェロー	森岡 裕子氏	大日本住友製薬株式会社 技術研究統括部長
佐々木 加津也氏	日立造船株式会社 開発本部 業務部長		

◆実施要領・申込要領

- ◇会 期：2021年7月21日(水)～11月8日(月)
- ◇会 場：大阪科学技術センタービル会議室 (大阪市西区靱本町1-8-4)
- ◇主 催：一般社団法人 日本経営協会
- ◇受講登録：1社につき2名様までのお申込が可能です。※登録者以外の方の代理出席も可能です。
- ◇定 員：30名
- ◇参加料：(1社あたり)

	1名登録の場合			2名登録の場合		
	参加料	消費税	合計	参加料	消費税	合計
本会会員	90,000円	9,000円	99,000円	150,000円	15,000円	165,000円
一 般	130,000円	13,000円	143,000円	190,000円	19,000円	209,000円

- ◇申込方法：下記参加申込書に必要事項をご記入のうえ、下記事務局までFAXまたは郵送でお申込みください。折り返し参加券を送付いたします。
- ◇申込締切日：2021年7月9日(金)
- ◇お支払方法：お申込到着後、本会から請求書と振り込み用紙を送付いたしますので、開講日までに請求書に記載の指定口座にお振り込みください。振込み手数料は貴社にてご負担ください。
- ◇その他：お振込みいただいた参加料は原則として返金いたしかねますので、ご都合が悪くなられた場合は代わりの方のご登録をお願いいたします。  
新型コロナウイルス感染拡大防止の状況により、Zoomを使用して例会を開催する場合や、中止・延期・日程変更となる場合があります。何卒ご了承下さい。

◆お申込・お問合せ先

一般社団法人 日本経営協会 関西本部 「MOT研究会」事務局 (担当：田中)

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センタービル5階

TEL：06-6443-6962 FAX：06-6441-4319 E-Mail：ksosaka@noma.or.jp

031A-2021(4)

2021年 月 日

NOMA 「第13期 MOT研究会」参加申込書

(一社)日本経営協会会員  一般

- (1) 会社(団体)名： \_\_\_\_\_
- (2) 住 所：〒 \_\_\_\_\_ TEL ( ) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_
- (3) 連絡担当者氏名： \_\_\_\_\_ 所属役職名 \_\_\_\_\_ FAX ( ) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_  
(請求書送付)

◆登録者

氏 名 (フリガナ)	所属・役職名	勤務先住所	連絡先 (TEL・E-mail)
フリガナ		〒	
フリガナ		〒	

参加申込書にご記入いただいた情報は、以下の目的に使用させていただきます。  
①参加券や請求書の発送などの事務処理 ②セミナー・イベントなど本会事業のご案内  
なお、②がご不要の場合は□にチェックしてください。—— □ 不要

本コースは、運営において参加者各位の氏名、勤務先名、所属、役職名を記載した参加者名簿を本講座の参加者全員に配布することが必要ですので、このことを同意のうえお申し込みください。